地域の信頼得て 持続可能な農業経営を

営農組合から経営継承し参入

福崎町　幸福米穀



辻部長（中央）を囲んで、右から若手社員の田口拓実さん、大西慶さん、永井柚さん、川戸琉靖さん

【兵庫】地元の営農組合が解散することになった福崎町東田原では、大阪府枚方市に本社を置く幸福米穀㈱が経営継承を受けて、2026年5月から農業経営をスタートした。

米穀卸売り事業などを幅広く展開する幸福米穀では、高齢化や担い手不足など日本農業の課題を見据え「持続可能な農業の実現」と、同社の安定的な事業継続を図るため、新たに農業経営を行うことになった。

企業の農業参入などを支援する「ひょうご農林機構」（神戸市）の紹介で、候補地の福崎町役場を訪問。解散する営農組合から経営継承を受け、水稲・小麦・大豆、約38・7㌶を栽培している。

幸福米穀ファーム事業部の辻竜介部長（50）のもと、農業高校や農業大学校を卒業した18歳から23歳の4人の若手社員が従事している。

辻部長は「地域から信頼いただけるよう、地元自治会とも連携して取り組んでいる。地域の大切な農地を守るため、収益モデルを構築して持続可能な農業経営を実現したい」と抱負を語り、若手社員からは「楽しい農業、もうかる農業を実現したい」と明るい笑みがこぼれた。

（山口昭彦）

村一丸でユズの普及に尽力

遊休農地解消ねらい 農委会も後押し

東吉野村



ユズの苗木を管理する農業委員

【奈良】東吉野村では2012年度、山間地での栽培に適したユズを村の奨励作物に認定した。現在、約1200本のユズが村内で育っている。

近年では、県外から栽培指導員を招き、ユズ栽培の技術を高める講習会を開くなど、生産意欲の向上と収量安定に向け、村一丸で力を注いでいる。

ユズ苗の配布を希望する村民のとりまとめや、作付けを広めるための協力など、遊休農地解消活動の一環として、同村農業委員会（岩本清会長）も村の取り組みを後押しする。

収穫されたユズは、村内の「小さな道の駅・ひよしのさと」加工センターが購入し、柚子胡椒（ゆずこしょう）などの加工品の原料に活用するなど、生産者の収入や村特産品開発につなげている。

現在、新たな取り組みとして、ユズ果汁を使ったレシピコンテストを開催。ユズで彩りを添えた日々の暮らしを提案することで、村産ユズの消費拡大をめざしている。

同村農業委員会の担当者は「これからもユズの普及を進めることで、少しでも遊休農地の解消につながれば」と話す。

（木村将史）

現地研修で大規模農業法人の経営に学ぶ

京都農業経営塾



経営理念を掲げた同社会議室で村田代表（右端）

【京都】府農業会議と府が主催する本年度の「京都農業経営塾」の現地研修が9月24日、㈱村田農園（久御山町）で行われた。

講師を務めたのは、塾の第1期生で村田農園代表の村田正己氏。同社は約20㌶で九条ねぎ、野菜苗、ホワイトコーンなどを生産する大規模な農業法人だ。

村田代表の講義では、経営規模の拡大に伴って取り組んできた組織づくりや販路開拓、人脈づくりなどを紹介。「従業員の適性に応じた業務分担に加え、月次決算で経営状況を把握し、売上高などの数字を従業員と共有することで、組織全体で経営を考える体制づくりを進めている」と説明した。また、「他の農業者との積極的な交流が、新たな取引先の開拓や経営改善につながる」と強調した。

さらに受講生は、栽培ハウスや出荷調製場、農業機械などを見学。年間を通じた育苗や、毎日2㌧を出荷できる調製体制など、大規模経営を支える現場を体感し、今後の規模拡大や経営改善を考える機会となった。

（山下道弘）

労災保険加入義務化に備え研修会

周知に向け関係団体連携めざす

和歌山県



労災保険制度に関する講義を行う宮尾社会保険労務士

【和歌山】県農業会議（下林茂文会長）は10月26日に「労働災害補償保険に関する研修会」を開催した。

この研修会は、2031年度から全ての農業経営体を対象に労働者を雇った時には労働災害補償保険（労災保険）の加入を義務付けることが決まったことを受け、周知の一環として開催。常設審議委員会、県、市町村、和歌山県農業協同組合、和歌山労働局から関係者35人が参加した。

宮尾社会保険労務士事務所の宮尾美佳社会保険労務士から労災保険制度の概要や今後の改正の見通しなどに関する講演と、全国農業会議所の日高孝昭主事から雇用体制強化事業に関する情報提供が行われた。

参加した和歌山労働局労働保険徴収室の柏木（かしわぎ）直（ただし）室長は「活発な質疑が行われていたことから農業者が関心を持っていると感じた。制度改正の周知に向けて、県内農業関係団体と連携を図っていきたい」と語る。

（鹿嶋俊宏）

青年委員奮闘中

▷46

高島市　采野　哲　農業委員



農業委員として、また担い手として、積極的に地域農業を考えていきたいと采野さん

【滋賀】高島市今津町の采野哲さん(46)は、55㌃の経営規模で水稲や麦、大豆を栽培する地域の中核的担い手だ。

農業委員に就任して今年で10年目。農業委員就任のきっかけは、農業委員会が新制度へ移行した10年前に、現場の若手の声を届ける好機と捉え、OBである高島青年農業者クラブの推薦を受けたことだった。

采野さんは日頃から地域の農業者に積極的に声を掛け、交流を通じて課題を収集している。農地の集約や交換など調整の難しい問題にも向き合い、農業者から集めた意見を地域計画のブラッシュアップに生かしている。

采野さんは「高齢者が多く離農が進む中で、次代を担う若い農業者たちが、意欲と誇りを持って農業に挑戦し続けられる環境を整え、実効性のある地域計画づくりを進めていきたい」と意気込む。

（福井かれん）

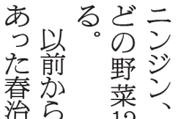
近畿

次代見据え、実効性ある地域計画づくりを

地域農業者と交流深め課題収集

近畿総局
和歌山県農業会議
和歌山市茶屋ノ丁2番1
和歌山県自治会館6階
073・432・6114

滋賀県支局　077・523・2439
京都府支局　075・441・3660
大阪府支局　06・6941・2701
兵庫県支局　078・391・1221
奈良県支局　0742・22・1101



合言葉はチャレンジ精神

珍しいイチゴ品種を積極的に栽培

河南町　ハルウララ農園



「チャレンジ精神と楽しんで農業をしたいという気持ちでさまざまな作目に挑戦中です」と福山さん

【大阪】河南町で「ハルウララ農園」を営む福山春治さん（57）と妻の智春さん（57）は、イチゴ12㌃とトウモロコシ、ニンジン、サツマイモなどの野菜12㌃を栽培する。

以前から農業に関心があった春治さんは、大阪府の「いちごアカデミー」の募集に目が留まり就農を決意。1年間の研修を経て3年前に就農した。

イチゴは土耕栽培で、「さちのか」「スターナイト」など周囲の農家があまり生産していない品種を積極的に栽培している。

農産物は主にJA大阪南の直売所「あすかてくるで」に出荷するほか、農園前の直売所でも季節野菜のセットなどを販売。春治さんは「今後はイチゴの株数や品種を増やし、珍しい作目にも挑戦したい」と意欲を見せる。

（沼田湧悟）